

実施日：7月7日 ～ 7月16日	
領域：教科 (国語科)	
取組名：自分の意見を読み手に伝わるように投稿しよう 資料名：「インターネットの投稿を読み比べよう」(東京書籍)	
対象：6年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み手を不快な思いにさせないために大切なことを考えることが出来る。(価値的・態度的側面)</li> <li>・ 読み手に自らの思いを理解してもらうために、書き表し方を工夫することが出来る。(技能的側面)</li> </ul>	
イ 指導内容 (指導略案) や取組の概要 第1次 児童の実態と課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットの議論への参加について考え、身近なことから関わらずその実態については深く理解をしていなかったことに気付く。</li> <li>・ 「自分の意見を読み手に伝わるように投稿しよう！」という単元名を設定し、学習する教材の中に登場する人物たちが繰り広げる議論を通して、投稿文のポイントを学び得ることを共通理解する。</li> <li>・ 投稿文のポイントとして、「説得するための工夫 (読み手に共感してもらえる内容)」を焦点化し、見通しをもつ。</li> </ul>	
第2次 共感を生む説得のポイントを見つけ、共通理解する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投稿文の中で、書き手の立場、書き手の意見や主張、理由や事例を用いて記述していることに加え、自身の経験や有名人の意見の引用、ことわざや格言の使用、具体的な数値を用いて記述していることに気付かせ、共通理解する。</li> <li>・ 上記の様な文章記述の方法について理解を促すことに加えて、誰が読んでも気分を害さない文章を書く態度にも着目する。</li> </ul>	
第3次 説得するための工夫を取り入れた投稿文を作成する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示している「共感を生む説得のポイント」を見て、他者意識をもった文章を作成する。</li> <li>・ 投稿文を通して自分に身についた力をふりかえらせることで、これからの生活や学習に生かそうとする意欲をもつ。</li> </ul>	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携に向けての取組 今後、様々なインターネットでのやり取りで経験する可能性があることを見込んで、授業で学んだことのポイントに加えて議論における言葉づかいや相手への思いやりについて家庭内で意見交流してもらうことを、懇談会や学年通信などで呼びかける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別活動 (児童会活動) にて、学校独自の SNS の正しい利活用についての取組を行う。自分や他者の人権を守るために必要なことを啓発し、人権感覚の向上に努める。</li> <li>・ 校内の取組として独自のアンケート調査を実施し、ネットトラブルの現状把握を行っている。そうした取組は生徒指導と連携することで改善を図る。</li> </ul>	
カ 評価の方法 ワークシート及び感想 [別紙②]	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後、投稿文の書き方のポイントが分かり、投稿時だけでなく今後の生活や学習における発言の参考にしたいと意欲的に取り組もうとする児童が増えてきた。</li> <li>・ 文章の書きぶり次第で相手に不快な思いをさせることに気付き、他者意識をもった文章作成に取り組もうとする児童が増えてきた。</li> </ul>	
ク 課題 相手を不快な気持ちにさせる文章は書きぶりだけでなく、記述した内容にも及ぶことを授業内で理解はできていると思われるが、日常生活で実行できるかという疑問が残る。そのために、学年通信でその点について追記するとともに、普段の生活や学習の中でも人権感覚をおさえた内容のやりとりを行えるよう指導していきたい。	